

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	嬉野市立吉田中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力の向上に関しては、生徒が自ら考え伝え合うために必要な基礎・基本の定着を図る授業実践が定着してきている。また、各学年の実態に応じた朝自習の取組も実施できている。今後は、基礎・基本の定着から思考力・判断力・表現力の向上につなげるために、県学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善や朝自習の取組の充実を図る必要がある。</p> <p>・心の教育については、計画的な道徳の授業や生徒主体の人権・同和教育を実践できている。生徒にとって、よい居場所となる学校の雰囲気も醸成できていることがアンケート結果からもうかがえ、いじめ問題の未然防止にもつながっていると思われる。今後も生徒の自己実現力、意志決定能力、コミュニケーション能力を高める活動を充実させていきたい。</p> <p>・健康・体づくりでは、約98%の生徒が健康増進と体力の向上、感染症対策を意識した生活を送っている。朝食の喫食率も高まり、睡眠時間が十分にとれている生徒も増加した。今後も教師による指導、家庭との連携、生徒会を中心とした取組を継続して行っていく。</p> <p>・業務改善・働き方改革については、全職員の時間外勤務時間の平均は上限の45時間を下回っているが、年度初めや学校行事に関する業務が増加する月は、上限を上回る職員がほとんどである。データの整理等を確実にし、業務の引き継ぎの効率化や業務の平準化を図っていく必要がある。また、部活動では複数顧問配置の利点を生かし、指導体制と指導の役割分担を再考し、業務改善につなげていく。そして、生徒と関わる時間の充実にさらにも高めていきたい。</p>
---------------	--

2 学校教育目標	賢く 優しく たくましい 生徒の育成 ～地域とともに、9カ年の学びのなかで～
----------	--

3 本年度の重点目標	①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③たくましい心身の育成 ④小中一貫教育並びに地域とともにある学校づくりの推進 ⑤働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「吉田メソッド」の深化 ○基礎・基本の定着 ○論理的思考力を高める学習指導	○「自ら考える」「伝え合う」場を工夫した授業を実践した教師を80%以上 ○基礎・基本の定着、論理的思考力を高める実践をした教師80%以上	・「考える」「伝え合う」「振り返る」活動を中心とした学習指導過程を充実させる。 ・各学年や各教科の課題を共有し、ドリル形式の取組を実施する。	B	・学習指導課程の充実を図っている肯定的に回答している教師は100%。 ・論理的思考力を高める実践をしている教師は42.9%であり、取組の内容も含め改善が必要である。	B	・論理的思考力を高める成果指標に対して、改善対策をすべきである。	学力向上対策コーディネーター 研究主任 各教科主任
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒90%以上	・道徳科の授業の充実 ・ふれあい道徳の実施 ・生徒主体の人権学習の推進 ・生徒主体のいじめに関する集会等の実施	A	・道徳や人権に関するアンケートで、肯定的な回答をした生徒は98%。 ・道徳の授業を計画的に行い、11月にふれあい道徳を実施した。 ・全障スポの体験や巡回公演(能)などを通して、豊かな心の育成を図った。 ・LGBTQIに関する講話を実施した。	A	・今後も利他の心を育む取組をお願いしたい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当 生徒会担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は、いじめがないように温かい雰囲気づくりをしている」という生徒・保護者の肯定的な回答80%以上	・職員会議・職員朝会等で生徒についての情報共有を行う。 ・いじめアンケートの実施(県標準式2回と毎月の教育相談アンケートの活用)	A	・友達にいやなことを言われたり、されたりしていないと肯定的に回答した生徒は85%と向上した。 ・学校は、いじめがないように温かい雰囲気づくりをしていると肯定的な回答をした生徒は約98%、保護者は100%である。 ・いじめの把握や情報共有を密に行う必要がある。 ・「先生あのね」(生活アンケート)を毎月実施し、生徒の状況把握やカウンセリングにつなげた。	A	・職員アンケートでポイントが下がっている項目については、なぜ下がったのかを掘り下げ、改善できることは改善していくべきである。	生徒指導主事 教育相談担当
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」という生徒の肯定的な回答80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・「ほめるから、はじめる。はじまる」を意識し、自他を尊重し、支持的風土のある学級・学校づくり ・進路指導の充実	A	・先生はあなたの良いところを認めてくれていると肯定的な回答は93.8%。 ・生徒の良いところを認め、ほめることを意識した指導を継続して行っていく。 ・自分の進路について考えるようになったと肯定的な回答をした生徒は93%。学級活動や総合的な学習の時間を通して、進路への意識が向上したと考えられる。	A	・将来の職業については、抽象的ではなく、具体的な職種に応じた進路選択ができるような指導をお願いしたい。	進路指導主事 総合的な学習の時間担当 各学年主任
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上 ○朝食を毎日きちんと食べて登校している生徒95%以上	・毎朝の健康観察で生徒の朝食喫食率の把握 ・食育だよりの発行 ・生徒会主体の啓発活動	B	・健康に良い食事をしていると肯定的な回答をした生徒は97%。 ・朝食を毎日食べて登校していると肯定的に回答した生徒は91.7%。朝食を食べていない生徒への個別指導と朝食の内容についての啓発を引き続き行っていく。	B	・家庭環境で難しい面もあるが、保護者を含めた食育の推進が必要である。	給食・食育担当 保健主事 生徒会担当
	●望ましい生活習慣の形成	○「睡眠時間は十分にとれている」という生徒の肯定的な回答85%以上	・毎朝の健康観察で生徒の就寝時刻と起床時刻(睡眠時間)の把握 ・保健だよりの発行 ・生徒会主体の啓発活動	A	・睡眠時間は毎日十分にとれていると肯定的な回答をした生徒は89.6%で、保護者の回答は92.9%。健康観察をもとに、睡眠時間が十分でない生徒には個別指導を行った。	A	・睡眠時間も重要であるが、睡眠の質も重要であるため、保護者への啓発が必要である。	養護教諭 生徒会担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守	・複数顧問体制による部活動指導の負担軽減と部活動休養日の確実な実施 ・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定	B	・全職員の時間外在校時間の1月までの平均は41.4時間。1人当たりの月45時間を超えた職員の割合は37%で、昨年度より改善された。 ・部活動休養日の実施は確実に行うことができた。しかし、週休日の負担軽減のために、複数顧問体制の利点を生かし、計画的な指導体制の見直しが必要である。	B	・将来、教師などを目指す生徒たちの希望となる改革をお願いしたい。	管理職
	○業務の効率化と生徒と共に活動する時間の充実	○行事の見直しと実施内容の検討 ○ICTを活用した業務効率の向上	・学校行事の内容(時間)を見直し、生徒と関わる時間を増やす。 ・前年度データの整理・活用や、最新の情報通信技術を活用し業務効率の向上を図る。	A	・行事を見直し、標準授業時数を大幅に超えることがないように調整を行った結果、生徒と関わる時間を増やすための業務改善ができた肯定的な回答した職員は88.9%であった。 ・会議資料等のペーパーレス化、過年度のデータの活用により業務効率が向上した。	A	・PTA行事や学校行事のさらなる見直しを行い、生徒との関わりを増やしてほしい。	教務主任 教育情報化推進リーダー 管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の推進	○9年間の学びを意識した小学校との一貫教育の充実	○小中連携したNIEの研究・実践 ○交流活動の実施	・小中連携しての研究・実践 ・交流活動の更なる充実に向けた計画・運営・内容の見直しを図る	A	・継続してNIE実践に係る小中協働の校内研究の取組ができている。 ・行事やブロック毎の交流活動に加え、音楽科による小中の交流授業の実践ができている。	A	・小中一貫教育を含め、吉田の子供たちにとって最良の取組をしてほしい。	教務主任 研究主任
○地域とともにある学校づくり	○地域とのつながりを大切にし、郷土愛を育む「吉田学」等の推進	○「地域学習は、ふるさと吉田について理解するために役立っている」という生徒の肯定的な回答90%以上	・地域学習の充実 ・地域に貢献する活動の実施 ・地域人材の活用	A	・地域学習は役立っている肯定的な回答をした生徒は100%、また、60.5%の生徒が9月以降の地域行事へ参加している。	A	・素晴らしい取組だと思います。	ボランティア担当 総合的な学習の時間担当 各学年主任 管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・学力の向上に関しては、基礎・基本の定着に向けて、何をどのように取り組むべきか再検討する必要がある。また、「考える」「伝え合う」「振り返る」活動のさらなる充実を図っていく。</p> <p>・心の教育に関しては、今年度の成果を次年度に引き継ぎ、個に応じた支援や特別な配慮を必要とする生徒への支援の充実につなげていく。</p> <p>・健康・体づくりでは、食習慣と生活習慣についての全体指導と個別指導の充実を図っていく。</p> <p>・業務改善・教職員の働き方改革については、業務の効率化と時間外在校時間の削減のための職員の意識改革に取り組む必要がある。</p> <p>・次年度は、NIE実践の2年目である。小学校の実践を参考にしながら、取組の充実を図る。また、引き続き小学校との連絡・調整を行いながら、校内研究や交流活動を充実させ、小中一貫教育の推進を図っていく。</p>
----------------	---